



目的を持って主体的に取り組む

先日、1・2年生の生活科の授業をのぞいてみました。この日は、保育所のお友達を楽しませるためのゲーム作りについて話し合っていました。



魚つりやくじ引き、ワニワニパニックなど、子供たちは楽しそうなアイデアを次々と出していました。一方で、「どうやったら魚が釣れるかな」「ハンマーは何で作ろうかな」といった課題もたくさん出てきたようです。それでも子供たちは、石井先生と一緒に知恵を出し合いながら、笑顔で話し合っていました。

自分が遊ぶためではなく、「保育所のお友達に喜んでもらいたい」という思いで活動している姿がとても印象的でした。誰かのために考え、

工夫しながら取り組むことは、子供たちにとって大きな喜びややりがいにつながります。そこには、「自分たちでやり遂げたい」という主体的な気持ちがあるからでしょう。

学校では、「目的を持って主体的に取り組むこと」を大切にしています。何のために学ぶのか、何のために活動するのかが分かると、子供たちの意欲は大きく高まります。そして、その過程で生まれる疑問や課題を、自分たちで調べたり、友達や先生に尋ねたりしながら解決していくことが、深い学びにつながっていきます。

これからの活動の中では、思うようにいかないことや失敗もあるかもしれません。しかし、その経験も子供たちにとって大切な学びの一つです。保育所のお友達の笑顔を思い浮かべながら、一生懸命に準備を進める1・2年生の姿を、これからも温かく応援していきたいと思います。

魚食講座「魚をさばいたよ」

10日、5年生9名が魚市場を訪れ、魚食講座を受講しました。この講座は、地域の魚食普及活動の一環として、市内の小学5年生を対象に実施されているものです。今年は、シーフードマイスターの方から魚のさばき方を教わり、イサキのムニエル作りに挑戦しました。

ほとんどの子供たちにとって、魚をさばくのは初めての経験です。講師の先生方に丁寧に教えていただきながら、一つ一つの工程に真剣に取り組んでいました。自分たちの手で調理したムニエルは格別だったようで、学校に帰ってくるなり「とてもおいしかった!」「さばき方が上手だとほめてもらったよ」と、うれしそうに報告してくれました。

実際に魚に触れ、調理し、味わう経験は、家庭科の授業ではできない貴重な学びです。食べ物が食卓に届くまでの過程や、地域の水産業について考えるよい機会にもなったことと思います。この体験をきっかけに、魚や料理、さらには食に関わる仕事にも興味をもってくれたらうれしく思います。

また、10月には5・6年生が、地元の3・Sunカンパニー様の御協力をいただきながら、郷土料理作りに挑戦する予定です。実りの秋、食欲の秋にふさわしい学習活動が続きます。子供たちが地域の食文化に親しみながら、多くのことを学んでくれることを楽しみにしています。

